

## 議事録 (抄)

会議名	平成30年度八王子市防災会議	
日時	平成31年2月20日(水) 14時00分～15時00分	
場所	八王子市役所本庁舎議会棟4階全員協議会室	
出席者名	委員	委員出席数 41名
	事務局	高橋 健司防災課長、青柳 志良課長補佐、高橋 吾朗課長補佐、 依田 和彦主査、須田 智文主査、佐宗 修主査、大貫 肇主任、 奈良田 恵子主任、大竹 将太主事
欠席者氏名	陸上自衛隊第一師団第一施設大隊 大隊長 能村 眞和委員 東日本旅客鉄道株式会社 八王子駅駅長 加藤 明人委員 日本通運株式会社 多摩支店長 若月 剛委員 一般社団法人東京都トラック協会 多摩支部理事 飯沢 宗光委員 八王子建設業協会 副会長 鈴木 重春理事 高尾交通安全協会 会長 小松 政見委員 東京都看護協会東海大学医学部附属八王子病院 看護部長 伊藤 由美子委員	
議事	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 平成31年度八王子市総合水防訓練実施概要について (案)</li> <li>(2) 平成31年度八王子市総合防災訓練実施概要について (案)</li> <li>(3) 平成30年中の災害発生状況と本市の対応等について</li> <li>(4) 平成30年中の災害救急状況について</li> <li>(5) 土砂災害警戒区域指定状況について</li> <li>(6) 地域防災計画(別冊)の一部更新について</li> <li>(7) 八王子市総合防災ガイドブックの配付について</li> <li>(8) その他</li> </ul>	
公開・非公開の別	公開	
非公開の理由	—	
傍聴人	なし	
配布資料	当日配付	
会議録署名人	八王子市自主防災団体連絡協議会 会長 並木 勇	

## 1 開 会

### 《配布資料確認》

防災会議次第、席次表、防災会議委員名簿参照

## 2 会長挨拶

【防災会議会長 石森市長】

## ◎議 事

(1) 平成31年度八王子市総合水防訓練実施概要について (案)

### 事務局：《資料1に基づき説明》

1の目的ですが、集中豪雨や台風による河川の氾濫、市街地における大規模な水災害に備え、消防署、消防団などの防災関係機関、町会、自主防災組織など各団体が協力して各種水防工法や救出救助訓練を実施することで風水害への対応力向上を図ることを目的とする。

2の訓練概要ですが、指揮本部運営訓練、監視警戒訓練、土嚢や身近にある機材を使った各種水防工法、救出救助訓練、水防活動を支える給食給水訓練、パネル展示、罹災証明書発行訓練などを予定、各機関の活動技術の向上とともに、市民への風水害、土砂災害に対する知識の普及啓発を図るものとしていきたいと考えている。

次に3の訓練想定ですが、台風の接近により、関東地方に強い雨が断続的に降り続き、5月11日午前8時には東京地方に大雨洪水警報が発表。河川が増水し、堤防から水があふれる危険性が高まるとともに、市内各所の道路も冠水し、建物への浸水の危険性が高まったとの想定で実施する。

開催日時は、平成31年5月11日、土曜日、午前9時30分から11時30分まで。実施場所は、市役所本庁舎前、鶴巻橋上流側の浅川河川敷広場を予定。なお、資料裏面の航空写真は、訓練会場周辺の案内図となっている。

### ◎ (1) 承認 (提案どおり実施)

(2) 平成31年度八王子市総合防災訓練実施概要について (案)

### 事務局：《資料2に基づき説明》

1訓練の目的ですが、本市の地域特性を活かした発災対応型の訓練を警察、消防、自衛隊などの防災関係機関や地域組織と一体で実施することにより、地域防災計画で掲げている、自助・共助・公助の密接な連携強化を図るとともに、防災意識の高揚を促進すること

により、着実な防災対策を図ることを目的としている。

2の訓練概要ですが、平成31年度の訓練は、戸建ての住宅街と中高層建物が混在する地域における各種対応訓練を中心に実施。主な内容として、木造建物の倒壊により逃げ遅れた方を、油圧ジャッキなど防災組織が所有する資機材を活用し、救出する訓練。中高層建物においては、発災時のエレベーター閉じ込め体験や、普段なかなか体験できない、バルコニーにある隔壁板の破壊訓練など、いざ発災した際に取りべきべき行動を体験しながら習得するものとしている。

併せて、初動の防災行動として重要な地震発生時、その場の状況に応じて自ら身を守るための「シェイクアウト訓練」も引き続き実施する予定。

3の訓練想定ですが、多摩直下型地震が発生したことを想定して行う。被害規模などは、現在、本市地域防災計画で規定している東京都が公表した多摩直下地震による被害想定に準じ設定。また、各種ライフラインにも大きな被害が生じた想定で、これらに対応する復旧訓練も各種機関により実施予定。

開催日時は、本年、2019年10月20日日曜日、午前9時から午前11時30分まで。実施場所は、市立石川中学校で、資料裏面に会場周辺図及び拡大図を掲載している。

#### **若林委員（消防団長）：《総合防災訓練実施場所の選定について》**

毎年、消防団も訓練に参加させていただいており、今年度も松が谷中学校で実施された総合防災訓練に参加している。

来年度については石川中学校で実施するというご説明があったが、総合防災訓練の実施場所の選定にはなにか基準などがあるのか、参考まで教えていただきたい。

#### **事務局：（高橋防災課長）**

市内には、市街地、住宅地、丘陵地など、さまざまな地形や特性がある。このため、市内を警察署管轄の3地域に区分し、それぞれの地域の特性に応じた訓練を実施している。

また、大規模な訓練となることから、一定の実演場所や参加者の駐車場などの確保も必要となる。

今回、石川中学校の選定にあたっては、まずは、実演場所であるグラウンドの広さが挙げられる。また、体育館のほかに武道場もあり、多様な訓練に対応が可能であること、会場周辺図からも確認できるように、駐車場として利用する宇津木台小学校から石川中学校へは、久保山公園を抜けると、至近距離であることなど、八王子警察署管内で適した会場として選定した。

#### **◎ (2) 承認（提案どおり実施）**

(3) 平成30年中の災害発生状況と本市の対応等について

**事務局：《資料3に基づき説明》**

はじめに、1の日本全国の地震発生状況です。昨年1年間に全国で震度5弱以上を記録した地震は9回発生。表では最大震度5弱以上の発生場所かつ八王子市でも揺れが観測されたものです。市内では昨年、震度1以上の有感地震を27回観測、いずれも被害はなし。

下段は、過去6年間に全国で発生した震度5弱以上の地震回数です。平成28年は33回と、他の年と比べひとときわ高く、このうち22回が熊本地震に伴うもので、いずれも熊本県内で起きた地震となっている。また昨年、平成30年の9回には、6月18日に発生した大阪府北部地震や、9月6日の北海道胆振東部地震も含まれております。

なお、本市の姉妹都市である苫小牧市において、この北海道胆振東部地震により、震度5強が観測され、2名の方が亡くなっている。市では市内36箇所に義援金箱を設置し、平成30年9月12日から義援金の受付を開始し、平成31年1月28日現在、1,189,813円を預かり、日本赤十字社へ送金した。

続いて、2の日本全国の台風・大雨等による主な被害状況です。

昨年は全国各地で台風、集中豪雨に伴う被害が多数発生いたしました。中でも、台風第7号に伴う「平成30年7月豪雨」は、西日本各地において、非常に大きな被害が発生。特に、岡山県倉敷市真備町では、河川の堤防が決壊、冠水が広範囲に及んだ。真備町だけでも51人が死亡、このうち43人は屋内で発見、ほぼ全員の42名が住宅の1階で発見されており、避難の判断が大きな教訓となった。この災害を受け、市では平成30年7月10日から義援金の受付を開始し、平成31年1月28日現在、11,510,777円を預かり、日本赤十字社へ送金した。また、災害ボランティア7団体28名に対し、1,099,000円を助成するほか、被災地での活動に車両で移動するための高速道路無料措置に関する手続きについて岡山県・広島県・愛媛県で合計8件の証明書を発行。

市職員の派遣については、東京都市長会や中核市市長会などを通じた要請を受け、避難所運営、災害廃棄物受入や被災者の健康管理などの業務に携わるため、合計21名が従事。このほか、台風第21号・第24号と、甚大な被害が続きました。

続いて、2ページ、3の八王子市における気象警報発表状況です。昨年本市には、大雪警報が1回、土砂災害への警戒を要する大雨警報が2回、浸水害に警戒を要する大雨警報が2回、洪水警報が1回、暴風警報が1回、発表。このうちの多くは、9月30日に発表された台風第24号の接近による土砂災害・浸水害ともに警戒を要する大雨警報、そして洪水警報及び暴風警報となります。

次の4で、この9月30日台風第24号の接近に伴う本市の対応を報告いたします。

はじめに、(1) 気象状況及び河川の状況について、9月30日の市内の雨量は上恩方町に設置してある雨量計で、それぞれ降り始めから177ミリを観測。河川の水位は、国道16号浅川橋付近に設置されている水位計では、翌10月1日午前1時30分に最大1.96メートルを観測。

次に(2) 市及び市消防団の対応状況について、市では、午後4時35分の暴風警報発表と同時に水防緊急連絡態勢をとり、防災情報メール、ホームページで周知を図った。その後台風の接近に伴い大雨警報、洪水警報が相次いで発表される中、10月1日午前0時11分には、観測史上初となる瞬間最大風速45.6メートルを記録。この間、市では道路冠水の対応や危険箇所のパトロール等を実施しましたが今回は、倒木や看板等の飛散といった暴風による被害が多く、消防団をはじめ関係機関と連携し、危険排除を行った。

最後に、(3) この台風による主な被害ですが、人的被害はなかった。物的被害は、市が把握しているものだけでも425件あり、そのうち199件が倒木。ウの被害状況は、公共施設関連の被害状況について、ほとんどが倒木や飛散物による影響。4ページの「停電」についても、電柱の倒壊や電線に掛かる倒木により、合計で26,231軒の停電が発生。また、被害に係る罹災証明書、被災証明書の発行件数は、エのとおり。

(4) 平成30年中の災害救急状況について

**水野委員（八王子消防署長）：〈資料4に基づき説明〉**

火災総件数は148件であり一昨年比マイナス28件。平成28年に続き2番目に少ない数字。焼損床面積は852㎡、一昨年比マイナス302㎡で平成22年・平成25年に続き3番目に少ない数字。焼損の内訳については建物記載のとおり。車両火災については15件、一昨年比プラス2件。林野火災については1件、加住町であった火災で一昨年比マイナス1件。その他火災48件で一昨年比マイナス29件。死者につきましてかっこ書きは自損であり自損1名、一昨年比ではマイナス2名となっているが実質マイナス1名。傷者は28名、一昨年比プラス3名。

救助件数については1,128件、一昨年比プラス28件、人員については1,020名、一昨年比プラス4名。そのうち山岳救助については118件、一昨年比プラス19件、救助人員は104名、一昨年比プラス16名。

危険排除件数については油流出、看板が飛ばされそうなどの災害、226件一昨年比マイナス5件。緊急確認件数については自動火災報知機の鳴動など263件、一昨年比プラス22件。救急支援活動、PA連携と呼ばれているが6,464件、一昨年比プラス30件。

八王子市内の救急出場件数は30,728件、一昨年比でプラス977件。救急搬送人員は27,417名、一昨年比プラス882名。

台風24号による水災の被害件数は26件だが、あくまでも消防で対応もしくは消防へ通報があった件数。市で発表されている件数よりも大幅に少ない。その他の内訳については表にて掲載。

#### (5) 土砂災害警戒区域指定状況について

##### 佐野委員（東京都南多摩西部建設事務所長）：《資料5に基づき説明》

土砂災害防止法は土砂災害から住民の生命を守るため、土砂災害の恐れのある区域について危険の周知、警戒避難体制の整備、一定の開発行為の制限、建築物の構造規制等のソフト対策を推進するものである。特に平成26年の広島災害、さらには平成30年の北海道胆振東部地震の被害状況等を受け、都民の関心は高くなっている。都においても安全安心に係わる重要な施策と位置付けている。

土砂災害防止法の区域については、2か年をかけて調査を実施、3年目に調査結果を市に意見照会し、住民に説明会の開催を経て区域指定となる。

八王子市は平成23年度より指定を開始し、毎年順次指定を進めてきた。昨年平成30年3月15日に指定が完了した。八王子市の区域指定箇所数は、土砂災害警戒区域が3,656か所、土砂災害特別警戒区域が3,225か所で都内市区町村単位では最も多い数となっている。

凡例を掲載しているが、現在は地形や土地利用状況を確認するため、概ね5年毎に行う2順目の調査を市内西側より進めている。

八王子市の地域防災力向上のためこれまで同様に八王子市と密接に連携し、土砂災害対策に着実に取り組んでいく。

#### (6) 地域防災計画（別冊）の一部更新について

##### 事務局：《資料6に基づき説明》

本市地域防災計画は、平成29年3月に平成28年熊本地震等近年の災害に即座に対応するため、熊本地震発生から2ヵ月後に修正作業を開始、平成29年2月の本防災会議での承認を経て本冊、別冊のうち本冊を先行して更新した。

各種災害関連資料を掲載している「別冊」について前回平成26年に改正、一定の期間も経過していることから、最新の情報とするため時点更新を行うこととした。

主な更新の内容について順次説明。

資料2-9について、資料2は、災害救助法及び応援協力関係の資料をまとめている。2-9では、平成28年10月1日に新たに本市と姉妹都市の盟約を締結した小田原市ならびに寄居町との災害時相互応援に関する協定を追加。資料2-12では、市内の自主防災団体の新規結成団体を一覧に追加。

資料3は、消防及び救助・救急、医療救護活動に関する内容だが、3-1では昨年、平

成30年12月より運用を開始した八王子消防署檜原出張所への更新、市消防団の組織、活動の拠点となる器具置場一覧、災害拠点病院や連携病院等、医療関連施設の内容を更新。

資料4について、交通輸送避難対策ですが、資料4-6指定緊急避難所、4-7指定避難所、4-8一時滞在施設。災害事象に応じた避難所開設が必要な場合もあるため、最新の時点で更新。各避難所へのマンホールトイレの設置も進めていることから、資料6-6により更新。

なお、今後の更新予定ですが、東京都地域防災計画の修正など、さまざまな機会を捉え災害発生に備えるとともに、いざという時に対応できるいわゆる「活きた資料」となるよう更新を行っていく考え。

報告での資料番号につきましては、付箋となっている。付箋をはずし現在の別冊と差し替えていただきますようお願いいたします。

#### (7) 八王子市総合防災ガイドブックの配付について

##### 事務局：《資料7に基づき説明》

はじめに1の作成目的ですが、これまでの議事でも報告しましたが、近年全国各地で地震や台風など多くの自然災害が発生し、大きな被害を及ぼしており防災対策は喫緊の課題となっている。本市ではこれまで洪水や土砂災害のハザードマップを作成し、市民の皆様にも周知を図るとともに、地域ぐるみで実施する防災訓練を支援するなど、取組みを進めてきた。災害への備えや対応は、日頃から一人ひとりが「我が事」として考えることが重要であり、いざ災害が発生した際に適切な行動が取れるよう、必要な情報をまとめた「総合防災ガイドブック」を作成。

2の仕様及び内容ですが、資料では表紙部分を掲載しているが、A4版フルカラーで48ページ。前半を啓発面、後半を地図面で構成。啓発面の特徴は次ページを参照。

啓発面1点目は風水害、地震などの自然災害事象のほか、新型インフルエンザなどの危機管理事象について、発生時における適切な行動や、事前の備えに必要な情報を総合的に掲載。

啓発面2点目は『東京防災』や『東京暮らし防災』などの関連図書と併用し、より深い防災対策が学べるよう、QRコードやホームページの検索ワードなどにより関連図書に誘導するガイド機能を充実。

次に地図面です。次ページ参照、市内全域の土砂災害及び洪水ハザードマップのほか、避難所、災害時給水ステーションなどの情報を掲載し、市内全体の防災に関する情報を俯瞰できる総合的な内容となっている。

最後に3の今後のスケジュールですが、本日の防災会議報告後、2月26日に市議会総務企画委員会にて報告。その後、3月15日号の広報はちおうじ及びホームページにて配付を周知し、3月16日から月末にかけて、市内全世帯に戸別配付。なお、委員の皆様には3月中旬に郵送にて配付。4月以降は、市外からの転入者に配付するほか、英語・中国語・韓国語の外国語版も作成しているので、関係機関を通じ配付。

**並木委員（八王子市自主防災団体連絡協議会会長）**

**：《八王子市総合防災ガイドブックについて》**

このガイドブックは、事前の備えや発災時の対応に必要な情報が多く盛り込まれ、関連図書へ導くガイド機能も充実させるとのことで、市民にとって活用しやすいものになるのではないかと感じた。市民だけでなく、自主防災組織としても、このガイドブックを有効活用できると考えてよろしいか。

**事務局：（高橋防災課長）**

ぜひ活用をお願いしたい。今回のガイドブックは、市内全戸へ配付する。まず「自助」の部分で日頃から市民の皆様、一人ひとりが防災行動について考えることで、被害の軽減につながることを目的としている。地図面では洪水と土砂災害のハザードを併せて掲載している。地域のことを一番知っているのは、もちろんそこに暮らす地域の皆様で、こうした想定を重ねたうえで、地域特性を踏まえた防災訓練や、地域独自の防災ルールを作っていくなど、「共助」としての活用も視野に入れているところである。ぜひ活用をお願いしたい。

**樋口委員（弁護士）：《八王子市総合防災ガイドブックについて》**

総合防災ガイドブックについては、外国語版もあるという話しでしたが、全戸に配布した時に外国語版の配付については希望者を募るのか。

**事務局：（高橋防災課長）**

希望者に配布する。関係機関である国際交流協会などの団体を通じての配付や、外国の方々にも渡せるような体制を整える。

**事務局：（高橋防災課長）**

事務局から1点ご報告。防災会議委員で本日体調不良で欠席のトラック協会多摩支部理事の飯沢委員から事前に質問をいただいているが、事務局から読み上げ、回答をさせていただく。

質問1、本日Jアラートの全国一斉試験が実施されたが、市内の防災行政無線の基数



を教えてください。

回答、基数は421基。現在はアナログ式からデジタル式に設備を更新しており、平成31年度に更新が完了予定。

質問2、地域防災無線の通信訓練をトラック協会と市で行っているが、他の団体とはどのように行っているのか。また何団体と行っているのか。

回答、現在は毎月第二水曜に23団体、第四水曜日に19団体を対象に通信訓練を行っている。また、月初めには消防団と通信訓練を行っている。

質問3、地域防災無線の受信機の時刻がずれているが、どのように直すのか。

回答、確認したところ2分程進んでいた。時刻については親機のある市役所のサーバ上で一括管理しており、無線の保守業者により対応する。

閉 会